

文部科学省では、中央教育審議会等の専門家による検討に合わせて、当事者による「熟議」に基づく意見を踏まえて政策形成を行っていくため、「リアル熟議」と「ネット熟議（熟議カケアイ）」をハイブリッドで展開

リアル熟議（現場対話での熟議）



平成22年4月17日開催の
「熟議に基づく教育政策形成シンポジウム」
からスタート

ネット熟議（Webサイト上での熟議）



平成22年4月17日オープンの
Webサイト「文科省政策創造エンジン 熟議カケアイ」
にて「教員の資質向上」等をテーマにスタート



【コンセプト】

- ①実際に対面で行う「現場対話での熟議」と、時間・場所の制約が少ない「Web上での熟議」をハイブリッド展開
- ②それぞれの熟議には、「教育現場の当事者」と「政務三役」が参加
- ③文部科学省職員は、熟議を促進する情報提供(事例やデータ)・ファシリテーター役として参加
- ④熟議のプロセスはネット等で公開(特に、「Webサイト上での熟議」はリアルタイムで公開)

文部科学省「リアル熟議」の展開(1)

「熟議」に基づく教育政策形成の在り方に関する懇談会委員等により先行的実施。
「リアル熟議」参加者が、新たな「リアル熟議」を主催したり、「ネット熟議」(熟議カケアイ)の参加者になるという波及効果も生まれており、全国津々浦々で開催中。
現場主導での「リアル熟議」実施を呼びかけ、その予定を「熟議カケアイ」サイトで公開し共有するとともに、実施主体に対して、文部科学省が参考資料の提供等適宜支援。
「リアル熟議」の実施結果について、「熟議カケアイ」サイトで公開し共有。



横浜リアル熟議(ヨコハマの学校と地域)
日時:平成22年6月23日(水)18:00~20:00
場所:横浜市都筑区役所6階大会議室
参加者:63名(1グループ約8名)

- 学校と地域をつなぐ「地域コーディネーター」の重要性が強調され、具体的な活躍の方策等が熟議された。
- 終了後、具体的なアクションプランを作り上げるワーキンググループが立ち上がり活動中。

文部科学省「リアル熟議」の展開(2)



千代田区リアル熟議(ICT)

日時:平成22年7月4日(日)13:00~17:00

場所:千代田区立九段中等教育学校

参加者:44名(1グループ約7名)

- Webサイトでの熟議、学校教育の情報化に関する有識者の懇談会、双方の議論を踏まえた「マインドマップ」を下敷きに議論が深められた



四ツ谷リアル熟議(四ツ谷の学校)

日時:平成22年7月17日(土)14:00~17:00

場所:新宿区立四ツ谷中学校

参加者:約40名(1グループ約6名)

- 学校に地域が参加し、地域も元気になる方策について、多様な地域の参加者も加わり、議論が深められた
- 「学校的意思決定のプロセスへの子どもの参加」と「教育政策形成への現場の参加」の必要性が重ねて語られた
- 最後に校長先生からは「熟議って良いですね!」という感想のコメントがあり、終了後、校長室で今後の四ツ谷での熟議の継続方策について、番外編熟議が行われた

文部科学省「リアル熟議」の展開(3)

今後、リアル熟議の開催を各地に呼び掛けていく予定(文部科学省は、リアル熟議の実施方法のアドバイスや資料の提供、職員の派遣等で協力。また、実施結果をHPに掲載し、全国で共有)

日時	テーマ	場所	実施主体
4月17日(土)	小・中学校をよりよくするにはどうすればよいか	文部科学省講堂	文部科学省
6月23日(水)	ヨコハマの学校と地域～明日からできること～	横浜市都筑区役所	横浜市教育委員会・北部学校教育事務所 北部4区役所
7月4日(日)	ICTを活用した21世紀にふさわしい学校や学びとはどうあるべきか?	千代田区立九段中等教育学校	NPO法人とうきょうED研究会
7月17日(土)	四谷地域の学校をより豊かにするために、私たちができること	新宿区立四谷中学校	エデュケーショナルフューチャーセンター
7月18日(日)	これからの津和野町における教育	津和野町日原山村開発センター	津和野の教育を考える会
7月24日(土)	大学は、もういらない?～私たちと大学はいかにあるべきか～	慶應大学 日吉キャンパス 来往舎	リアル熟議を実施する学生の会
8月1日(日)	学校・家庭・地域の連携強化に向けて	秋田県由利本荘市立本荘南中学校	由利本荘市教育委員会
8月7日(土)	学校のために、これから自分ができること	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校	NPO法人日本教育再興連盟
8月8日(日)	小中学校をよりよくするために―事務職員からの提案―	豊橋市民センター(カリオンビル)	学びの支援ネットワーク
9月4日(土)	「未来の学校」～2020年の学校を語ろう	青森県横浜町ふれあいセンター	横浜町教育委員会
日程調整中	大学で何を学ぶべきか・大学はなんのためにあるのか	青山学院大学青山キャンパス	NPO教育支援協会、学生団体 STUNITY

※ 他、多数調整中

主催：リアル熟議を実施する学生の会
共催：文部科学省、NPO 法人カタリバ
慶應義塾大学金子郁容研究室

未来をはなそう、
なんかつまんないの正体

Real

SUKUGI

リアル熟議

これからの大学

—私たちと大学はいかにあるべきか。

7.24.sat 13:00-17:00

慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎 シンポジウムスペース

1. 熟議とは

「熟議」とは、多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくことです。

政策を形成する際、

① 多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、

② 課題について学習・熟慮し、討議をすること

により、

③ 互いの立場や果たすべき役割への

理解が深まるとともに、

④ 解決策が洗練され、

⑤ 個々人が納得して自

分の役割を果たすよう

になる、

というプロセスのこと

をいいます。

2. リアル熟議 7.24 とは

私たちは、対面で直接会って話す「リアル熟議」を行うこと

を通して、新しい政策形成・創造のプロセスの実験に挑みます。

政策形成をするうえで政治家や官僚などが持っている「専門知」は

もちろん大切なものです。しかし、問題の当事者が持つ「経験知」を加

えることで、問題をより多面的にとらえ、解決策を創造し、それぞれが

「はじめの一步」を踏み出すことができる。私たちはそう考えています。

「リアル熟議 7.24」では、以下のような、政策形成・創造のプロセスを4時

間で参加者のみなさんに体感してもらいます。

①多様な立場・価値観を持つ大学に関わる当事者（高校生、大学生、高校生、大学生、社会人、研究者、有識者、政治家など）が「私と大学のあり方」について自分の本音をぶつけ合う。

②相手の立場や役割、意見を相互に理解し、さらにどこが共通の課題になっているかを議論する。

③それぞれが「当事者意識」を持って参加する議論により、大学に関わる政策や課題の解決策を編集・創造する。

④当事者がボランタリーに改革アクションを開始し、ひいては大学そのもののあり方や大学に関わる人々の役割・立場が変わっていく。

こういう可能性を大学問題において追求するキックオフの場が

「リアル熟議 7.24」なのです。

【リアル熟議】 <http://real-jukugi.org/>

【熟議ケアイ】

[http://jukugi.mext.](http://jukugi.mext.go.jp/)

[go.jp/](http://jukugi.mext.go.jp/)



3. テーマ

大学はもういらない？～私たちと大学はいかにあるべきか～

大学入試制度

就職と進学

大学内の学習
研究や活動

4. 当日スケジュール

日時：7月24日（土）13:00-17:00（開場：12:30）

会場：慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎 シンポジウムスペース

- 13:00 開会
- 13:10 イントロダクション
- 13:30 グループ討論 -前半-
- 14:30 休憩
- 14:45 グループ討論 -後半-
- 16:10 各班まとめ発表
- 16:30 総括
- 16:50 閉会
- 17:00 交流タイム



5. 団体概要

団体名称：「リアル熟議を実施する学生の会」

設立年月：2010年6月2日

連絡先：info@real-jukugi.org

主な活動内容：リアル熟議の企画・運営

団体構成：

<代表>本田哲也

<スタッフ>

山本竜也	今井理紗	遠藤忍	中村一揮	菅原綾子	鳥巢龍馬	
宮口祐太郎	神野翔	畠山敦志	岡部優	柴崎直貴	石井壮太郎	大坪佳祐

6. 今後について

私たちリアル熟議を実施する学生の会は、「リアル熟議「リアル」以降も新しい公共を担えるような仕掛けづくりを行っていきます。

そして、本日ご参加いただき出会えた皆様とのご縁をこれだけで終わらせないために、参加者の皆様のメーリングリストを作成させていただきたいと思っております。

本日の熟議の内容やその後の政策提言、次回以降の活動についてメーリングリストを通じて、ご連絡させていただきたいと考えております。

今回の熟議で出来た皆様のつながりが、いつか新しい公共を担う際の手助けになれば幸いです。

ご協力いただける方は、終了後に回収させていただくアンケート用紙にメールアドレスをご記入ください。

山
崎
義
典